

あの漢方薬製造会社が明和町へ進出！

～株式会社ツムラが東部工業団地に進出します～

令和6年12月19日、漢方薬の製造で有名なおなじみの(株)ツムラが明和町の東部工業団地へ進出すると上毛新聞のトップで報じられました。

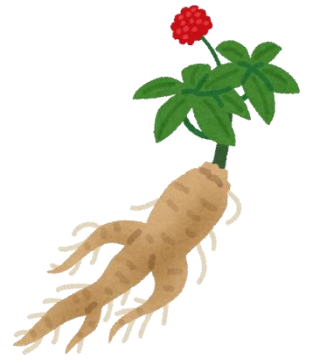
発表後の令和7年1月27日、(株)ツムラの加藤社長が工場進出現地を視察された際、明和町役場にお立ち寄りいただきました。



【(株)ツムラ加藤社長と私】

(株)ツムラは、漢方薬品のトップメーカーで、国内シェア率 84.2%、資本金は 301 億 42 百万円、従業員数は 4,138 名(すべて 2023 年度末時点)の大きな会社です。

漢方薬は、草や木、動物、鉱物などの自然界の植物や動物、鉱物から抽出した生薬を組み合わせられて作られた薬で、病態だけでなく、体質も考慮して処方され、身体と心も含めたからだ全体のバランスを整え、心身ともに健康に導くものと言われています。



しかし漢方は、1895 年の帝国議会で「漢医継続願」が否決され、衰退。その後、ツムラの創業者津村重舎氏は、漢方医と連携しながら「漢方の復権」に全力を尽くしていきます。1976 年に医療用漢方製剤 33 処方が薬価基準に収載され、漢方の復権を成し遂げました。

その後、漢方薬のエビデンス（主張や結論を裏付ける証拠や根拠）を確立する取り組みなどにより、業績は順調に伸長。漢方薬の需要は、ストレスや冷え性、胃腸の不調などの精神・身体面での不調に対するニーズも多く、これからも漢方市場は拡大していくものと思います。

漢方薬の製造過程は、生薬から有効成分を抽出し、乾燥させ、エキス粉末とします。そのため、漢方の工場は、広さや設備も必要になります。そうした工場に必要なものを希望するツムラ様と、財政を安定させるべく、大きい工場に来てほしいという明和町と想いがマッチし、今回の進出につながりました。

加藤社長との懇談は和やかなうちに進み、加藤社長からは「群馬工場開設の折には、地域のかたがたを招いて夏の納涼祭を行うなど、地域に密着した企業になりたい」とお話をいただきました。私からも、地元採用社員の発掘

に各学校へPRする話のほか、不動産業の経験と人脈をいかし、社員の皆様が町に住んでよかったと思えるまちづくりを群馬県にも働きかけ、進めていきますと話しました。加藤社長からも「大変ありがたい。様々な形で明和町に貢献したい」とお話をいただきました。



【(株)ツムラの皆様と懇談の様子】

加藤社長との懇談は大変盛り上がり「今後もよろしく頼みます」と固い握手を交わしたあと、加藤社長たちは、コストコやツルヤ予定地、駅前のホテルや病院、工業団地全体の様子を視察していただきました。

私が平成27年4月に町長就任以来、県と当時の大澤知事に働き掛けて何とか形にさせていただいた東部工業団地ですが、このように企業誘致が成功して形となっていくことを大変嬉しく思います。



【新工場用地を視察されている様子】

東部工業団地の造成には、様々なことがありました。数多くの困難も明和町の熱意と決意で乗り越え、群馬県の協力のもと、新たな工業団地選定区域として明和町の東北自動車道(高速)の両脇が工業団地候補地域として選定されました。

大澤知事が工業団地指定のため関東農政局に奔走してくださいました。産業団地候補地となり、都市計画の調整、そして農政協議をしていただきました。

現在、明和町は町と土地開発公社、まちづくり会社の連携で、他には例を見ないスピードで頑張っています。そして、これからもこのスピードを緩めることなく進んで行きたいと思います。

令和7年2月28日

明和町長

富塚もとすけ